

# 災害後における学校教育の持続性と学校施設の 安全性・地域公共性に関する研究

竹内 裕希子<sup>1</sup>・ショウ ラジブ<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 京都大学大学院地球環境学堂

E-mail: [y.takeuchi@fw7.ecs.kyoto-u.ac.jp](mailto:y.takeuchi@fw7.ecs.kyoto-u.ac.jp)

<sup>2</sup> 京都大学大学院地球環境学堂

東日本大震災では、多くの学校が津波の被害に遭遇していることを踏まえ、学校の立地条件を検討することは、子供達の命と教育の場を守るだけでなく、地域の復興においても重要であると考えます。多くの学校施設は、地域の避難場所に指定されており、災害が発生した場合には、地域住民の生活の場となる。学校設備を住民に提供しつつ、教育の継続を維持することは、被災地の学校において大きな課題点である。学校施設の共有と学校教育の継続、また、公共施設として学校が地域とのコミュニケーションの役割をどのように果たすのか、その課題点を抽出・整理をし、今後の復興並びに防災対策へ適応することを目的として、「学校の設置に関する課題点の抽出と整理、対応策の検討」、「学校教育の持続性に関する課題点の抽出と整理、対応策の検討」、「地域における学校設備の利用と学校の役割」について検討する。

キーワード：防災教育、学校立地、学校教育の継続性、地域と学校の役割